

保証書

この製品は、厳密な品質管理および検査を経てお届けしたものです。正常な使用状態において、万一故障した場合には、お買い上げ販売店に必ず本保証書を提示の上、修理を依頼してください。別掲の保証規定により無料で修理いたします。

※印欄に記入がない場合は、無効となりますので、お買い上げ時に必ず記入の有無をご確認ください。

商品名	RT-522DX	
保証期間	※ お買い上げ年月日	1 年 間
	平成 年 月 日から	
※ お客様	住所 〒 電話	様
	氏名	
※ 販売店	氏名 ①	様
	住所 〒 電話	

本保証書は再発行しませんので大切に保管してください。



株式会社 **マルハマ**

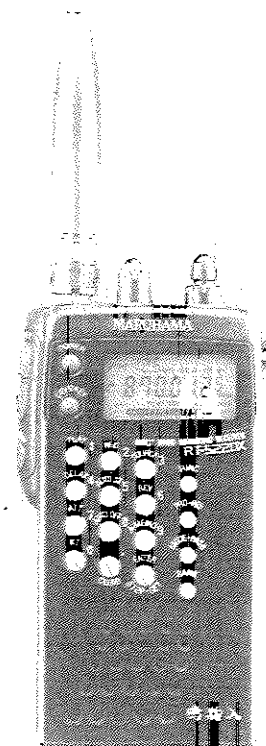
〒232 横浜市南区白妙町4丁目43番地4
サービス部：(054)626-2098

MARUHAMA

録音・再生機能付
携帯用マルチバンドレシーバー

RT-522DX

取扱説明書



RT-522DXをお買い上げいただき誠にありがとうございます。

この取扱説明書は本機を正しくお使いいただくためのガイドブックです。ご使用になる前に本書をよくお読みになり、内容を十分理解された上でご使用くださるようお願いいたします。

また、本書はいつもお手元において都度ご参照ください。

目次


	ページ
1. 安全についてのお願いとご注意	1
2. 製品の構成	6
3. 本機の有する機能と特長	7
4. ご使用になる前に	8
5. 操作方法 ステップ1 〈受信をしてみよう〉	10
1. 各部の名称とはたらき	10
2. 簡単受信をしてみよう	10
6. 操作方法 ステップ2	14
1. 各部の名称とはたらき	14
2. 受信エリアについて	17
3. 聴きたい周波数(チャンネル)をダイレクトに受信する	19
4. プログラム受信	20
5. 受信モードの設定	21
6. チャンネルステップの設定	22
7. 秘話通信(スクランブル)の解読	23
7. 操作方法 ステップ3	24
1. メモリーの登録	24
2. チャンネルメモリーの登録	24
3. エリアメモリーの登録	27
4. パスメモリーの登録	29
8. プライオリティー受信	31
9. 盗聴電波の受信	33
1. 盗聴電波の受信方法	33
2. 盗聴器の場所の特定	33
10. 録音・再生機能	34
11. ファンクションキーを使用した機能	35
12. 電源ON時の機能	38
13. 故障とお考えになる前に	39
14. 主な仕様	40


1. 安全についてのお願いとご注意


安全についてのお願い

本機を安全にご使用いただくには正しい操作と安全に関する注意事項をお守りいただくことが不可欠です。本書では、最初に、もしお守りいただかないと重大な人身事故につながるおそれのある事項を“警告”として掲げています。次いで、もしお守りいただかないと、使用者がけがをしたり、製品の損傷や故障につながるおそれのある事項を“注意”として掲げています。また、“法的規制”、“機能上の制約”についても説明しています。

本書では“警告”と“注意”に関し、マークを付与して注意を喚起しています。それらの使用区分は次のとおりです。なお、各マークの外枠の中の小マークは具体的な内容を示します。

 : 警告、注意(特定しない“警告”と“注意”を示します。)

 : 禁止(“警告”と“注意”の内、してはいけないことを示します。)

 : 強制(“警告”と“注意”の内、しなければならないことを示します。)

本機をご使用になる前にこれらの内容をよくお読みになり、十分理解の上操作してください。“警告”や“注意”は本機を本書に規定する目的で使用する場合のみを想定しています。本書に書かれていない方法での使用は絶対に避けてください。規定外の方法でご使用になったことによって発生した事故などについて、弊社は一切の責任を負いません。





なお、本書を紛失、汚損された場合は切手400円分を同封の上弊社宛ご請求ください。

安全についてのご注意


⚠ 警告

(人身の安全のためにお守りいただくこと)




使用場所、使用環境

-  ■自動車、自転車など乗り物を運転中に操作しないでください。
乗り物の運転中に本機を操作することは、交通事故の原因になりますので、絶対に避けてください。
-  ■人混みの中では使用しないでください。
アンテナが目などに当たり、けがの原因になります。
-  ■本機に水がかかる可能性のある場所で使用しないでください。
風呂場では使用しないでください。また、雨天時、海岸、水辺での使用時には水がかからないよう十分注意してください。水がかかった場合はすぐに拭き取ってください。また、万一内部に水が入った場合は直ちに本機の電源を切り、ACアダプターを使用中の場合にはコンセントから抜いてください。
そのまま使用しますと、火災や感電の原因になります。
-  ■雷が鳴り始めたら本機の使用を中断してください。
雷鳴時に本機に触れますと感電の原因になります。


分解、改造の禁止

-  ■キャビネットは絶対にあけないでください。
本機は精密部品を多数搭載しています。分解や改造を加えますと故障が起き、また感電の原因になります。

電源、電源コードの取扱い

-  ■定格以外の電圧で使用しないでください。(ACアダプター使用時)
定格(DC12V)以外の電圧を加えますと異常に発熱し、火災や感電などの原因になります。
-  ■外部電源を使用する場合はかならず弊社純正のACアダプター(付属品)をご使用ください。
他社製アダプターを使用しますと故障の原因となるのみならず、異常に発熱し、火災の原因になります。また、本機同様、ACアダプターの分解や改造は避けてください。
-  ■電源コードを傷つけたり、傷んだ電源コードを使用しないでください。
電源コードが傷んだ場合は販売店から新品を購入してください。そのまま使用しますと火災や感電の原因になります。




異常検出時の対処

-  ■発熱、発臭、発煙を検出した場合には直ちに使用を中止してください。
これらの異常を検出した場合には直ちに本機の電源を切り、ACアダプター使用中の場合はコンセントから抜いて使用を中止してください。そのまま使用しますと、火災や感電の原因になります。修理は販売店に依頼してください。お客様ご自身での修理は絶対に避けてください。




⚠ 注意

(けがや本機の故障を避けるためにお守りいただくこと)


使用環境、取扱

-  ■ 衝撃や振動を加えないでください。
衝撃や振動を加えますと、精密部品が壊れ故障の原因になります。
-  ■ テレビ、ラジオなどの電子機器から離れた場所でお使いください。
強い電波を発する電子機器の近くでは正常に動作しない可能性があります。
-  ■ 規定範囲内の温度条件下でお使いください。
本機は-10℃～+60℃の範囲で動作します。この範囲外で使用しますと故障の原因になります。

電池の取扱

-  ■ 電池を本機に挿入する場合は極性（プラス、マイナスの方向）に注意し指示どおりに正しく挿入してください。
間違えて挿入しますと、乾電池の破裂、液漏れにより、けがをしたり故障の原因になります。
-  ■ 新旧の電池を混ぜて使用しないでください。
電池の劣化を早めるとともに破裂、液漏れにより、けがをしたり故障の原因になります。
-  ■ 使用済みの電池をふつうのゴミと一緒に捨てないでください。
使用済みの電池は環境保全のため、地域で定められている“電池回収日”に所定の箱に入れるか、あるいは電器店の“電池回収箱”などへ入れてください。

保守

-  ■ 長時間ご使用にならないときはACアダプターをコンセントから抜いてください。
そのまま放置しますと故障の原因になります。



- ケースが汚れた場合は柔らかい布またはティッシュペーパーで拭き取ってください。




シンナー、ベンジン、化学雑巾などを使用しますと、本機の形状が変化するおそれがあります。また、お手入れの際はかならず本機の電源を切り、ACアダプターはコンセントから抜いてください。

法的規制



- 電波法を遵守してください。
電波法第五十九条により、特定の相手方に対しておこなわれる無線通信を傍受し、その存在もしくは内容を第三者に漏らしたり窃用することが禁止されています。厳重に注意してください。

機能上の制約

- 音声、雑音とは違う信号音を受信することがあります。
本機はアナログ通信を対象としており、デジタル通信や制御チャンネル通信、また音声反転方式以外の秘話通信を受信することはできません。その場合、雑音とは違う信号音を受信します。
- 内部干渉により指定帯域外の電波を受信することがあります。
- 使用場所により受信できない場合があります。
電波の遮断された建物の中、電波の届かない山中、強い電波が発射されている放送局の近辺などでは受信できない場合があります。
-  ■ 日本国内で使用してください。
本機の仕様は日本国内向けとなっています。外国では電波方式、電源電圧が異なりますので使用できません。

2. 製品の構成

お買い上げいただいたRT-522DXは次の品目から構成されています。

- 本機……………1台
- ラバーアンテナ……………1個
- ACアダプター……………1個
- イヤホン……………1個
- ハンドストラップ……………1個
- 取扱説明書兼保証書（本冊子）……………1冊

【別売品】

別売品として、次の品目があります。

- マグネット式車載アンテナ（MRA-5）

3. 本機の有する機能と特長

■ 超高感度・高性能受信機

受信機能をコンパクトボディに集約。ワイドな情報を超高感度でキャッチします。

■ 簡単操作

わかりやすい液晶表示と簡単な操作性により、各種の設定を容易におこなえます。

■ 音声の録音・再生が可能

受信中の音声およびマイクからの音声を、最大で約30秒間録音し、再生することができます。

■ 24エリアをワンタッチ受信

本機では24エリア（3バンク×8エリア）をあらかじめメモリーに登録しています。聴きたい周波数帯をワンタッチで呼び出せます。

■ メモリーへの登録

チャンネルメモリー（指定の周波数）およびエリアメモリー（幅を持った周波数を指定）をメモリーバンクへメモリー登録することができます。

■ プライオリティーチャンネルとパスチャンネルの設定

特定のチャンネルをプライオリティーチャンネルとして指定できます。プライオリティーチャンネルについては、約3秒毎に信号検索をおこない、信号が存在すれば優先的に受信します。また、自動選局中に受信を回避したいチャンネルをパスチャンネルとして指定できます。パスチャンネルに指定されたチャンネルは受信しません。

■ 盗聴電波の受信

VHF帯およびUHF帯を使用した、無線式盗聴器の発信する電波を受信することができます。なお、無線式盗聴器によく使用される周波数があらかじめメモリー登録されています。

■ 秘話通信の解読

コードレス電話の秘話通信（音声反転方式）を解読できます。

■ 受信状態が一目でわかるレベルメーター

受信レベルをレベルメーターで表示します。

■ その他便利な機能

次のような機能を内蔵しています。

- アッテネーター機能
- チャンネル・リバース
- キーロック
- バックライト照明
- 操作音の消去

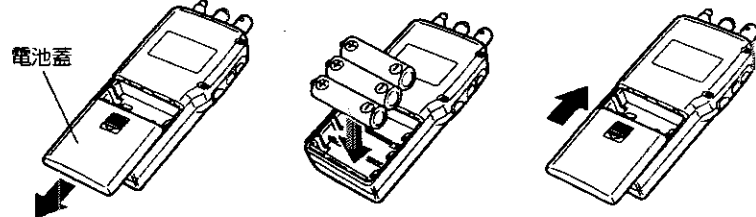
4. ご使用になる前に

1. 電源について

本機の電源は単3形アルカリ乾電池を3本使用します。
使用状況にもよりますが、約12時間連続で使用できます。
付属のACアダプターにより、家庭用電源（AC 100V）でもご使用になれます。

2. 乾電池の入れかた

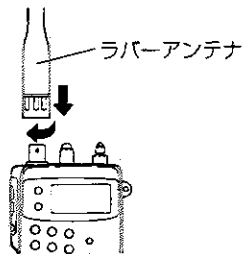
- ① 本体背面の電池蓋を矢印の方向にスライドして外します。
- ② 乾電池（単4形 3本）の極性を間違えないように入れます。
- ③ 電池蓋をスライドして固定します。



3. 付属品の取付方法

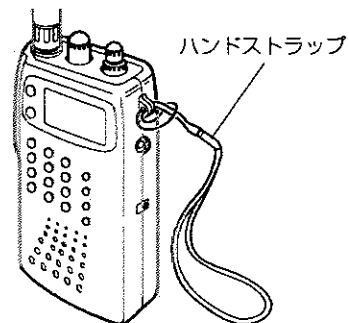
① アンテナの取付

アンテナ端子に付属のラバーアンテナを取り付けます。アンテナ端子の突起部とアンテナの溝を合わせて押し込み、1/4回転まわして固定します。



② ハンドストラップの取付

本体のハンドストラップ取付穴に、図のように通して取り付けます。



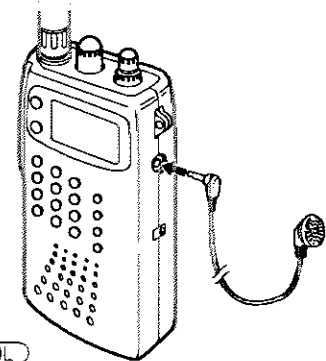
—— ちょっとひと言 ——

- 付属のラバーアンテナ以外に、市販のアンテナ（BNC型）もご使用になれます。市販のアンテナを使用する場合は、目的の周波数に合う、インピーダンスが50Ωのものを使用してください。

4. イヤホンで聴く場合

イヤホンでお聴きになる場合は、必ず音量を下げってから、イヤホンを装着してください。

- ① 音量ボリュームを下げ、付属のイヤホンを本体側面のイヤホンジャック（EAR）に接続します。



- ② イヤホンを装着した後、音量ボリューム（VOL）を回して適度な音量にします。

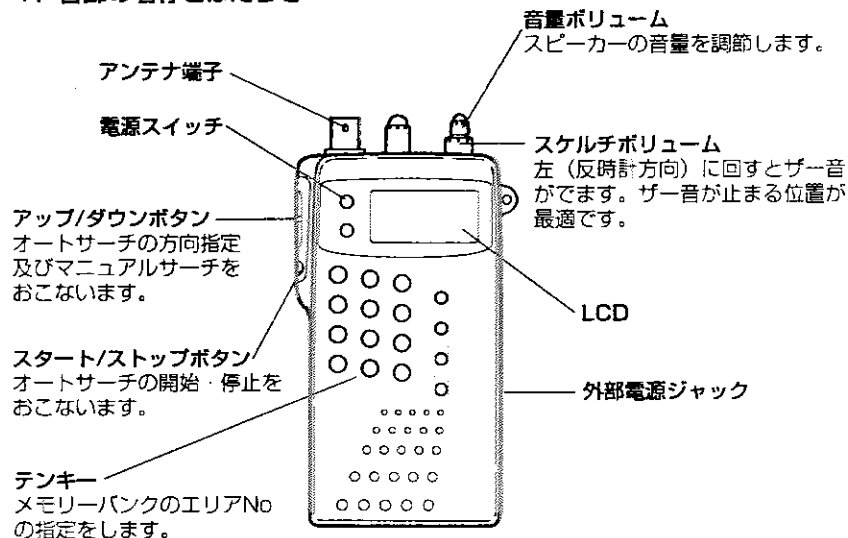
—— ちょっとひと言 ——

- イヤホンを接続すると、本体内蔵のスピーカーからは音が出ません。
- 音量ボリュームが同じ位置でもイヤホンで聴く場合は、スピーカーよりかなり音が大きく聴こえます。イヤホンでお聴きになる場合は、音量に注意してください。

5. 操作方法 ステップ1

〈受信を試みよう〉

1. 各部の名称とはたらき



2. 簡単受信を試みよう

① エリアをサーチする

メモリーバンクに登録済みのエリアをオートサーチします。
メモリーバンクには下記のエリアが登録されています。

エリアNo	BANK A	BANK B	BANK C
1	NTT携帯電話基地局	NTT携帯電話移動局	救急・新救急無線
2	新電々系携帯電話基地局	新電々系携帯電話移動局	消防・消防署活系無線
3	小電力コードレス電話	パーソナル無線2	防災行政無線
4	アマチュア無線(VHF帯)	タクシー無線	防災行政MCA連絡波
5	アマチュア無線(UHF帯)	バス・鉄道無線	災害復旧用電話 海上自衛隊船舶 海上保安庁船舶
6	パーソナル無線1	航空無線	報道連絡波(新聞、TV)
7	特定小電力トランシーバー	MCA業務用無線	電力、ガス、水道
8	盗聴電波	各種業務・一般簡易無線	道路公団、JAF

操作方法

(例) バンクⅠのエリアⅠに登録してある受信エリア (NTT携帯電話基地局) を、オートサーチして聴く。

- 電源を入れます。
電源スイッチ (POWER) を1秒以上押し続けると、LCDが表示します。
- 音量を調節します。
音量ボリューム (VOL) を回して、適度な音量に調節します。
- スケルチを調節します。
スケルチボリューム (SQL) を回してザー音が止まる位置に調節します。

ちょっとひと言

● スケルチボリュームを右 (時計方向) に回しすぎると、オートサーチはしますが、弱い電波を受信できなくなります。また、左 (反時計方向) に回しすぎるとオートサーチしなくなります。(START・STOP) ボタンを押して、スケルチボリュームの位置を確認します。目安として、スケルチボリュームの印が「5」の位置にくるようにしてください。

- バンクモードにします。
(FUNC) キーを押してから5秒以内に (BANK) キーを押して (BANK) にします。
このキー操作の度に、BANK↔MANUALが切り替わります。

- バンクⅠのエリアNoⅠを指定します。
テンキーの (1) を押します。
エリアNoを指定すると、LCDディスプレイにそのエリアの最初のチャンネル (周波数) ・受信モード・チャンネルステップ・ディレイなどを表示します。

ディスプレイ表示

FM 12.5 KHz BANK DELAY
870.0 12.5 MHz
1^A

ちょっとひと言

● 他のバンクを指定する場合は、(BANK) キーを押します。
(BANK) キーを押す度に、Ⅰ→Ⅱ→Ⅲの順にバンクが切り替わります。

- オートサーチ (自動選局) します。
(START・STOP) ボタンを押すと、LCDディスプレイに「▲」マークが点滅して、最初のチャンネルより上側にオートサーチを開始します。

ディスプレイ表示

FM 12.5 KHz BANK DELAY
▲ 870.0 12.5 MHz
1^A

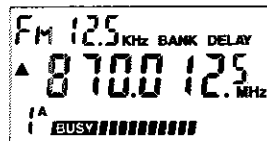
ちょっとひと言

● オートサーチ中に (▲) アップまたは (▼) ダウンボタンを押すと、押し込んだ方向にオートサーチします。

7 チャンネルを受信します。

通話中のチャンネルがあると、そのチャンネルでオートサーチを停止して受信状態になります。LCDディスプレイの“▲”マークの点滅が止まり、[BUSY]マークを表示します。また、受信電波の強さを、レベルメーターが表示します。

ディスプレイ表示



8 受信中のチャンネルが終了または電波が非常に弱くなって受信できない場合は、ディレイ時間分受信待機したあと、次に使用しているチャンネルまでオートサーチを開始します。




注意

● LCDディスプレイに“HOLD”を表示していたり、“▲”マークが消えている場合はそのチャンネルで受信待ちになっています（オートサーチしません）。オートサーチさせる場合は、[START・STOP] ボタンを1回押します。

9 チャンネルを受信中に他のチャンネルをサーチしたい場合は、[START・STOP] ボタンを2回押します。





“▲”マークが点滅して、次のチャンネルまでサーチを開始します。

ちょっとひと言



- 電源スイッチを押したときに、LCDディスプレイが何も表示しなかったり、“”マークを表示している場合は、電池が消耗していますので電池を交換してください。
- キーロック () 表示
LCDディスプレイに “” が表示されている場合は、キーボード（機能キーとテンキー）のキー操作が何もできなくなります。
[LIGHT・KEY] キーを1秒以上押し続けると、キーロックを解除します。
- HOLD（ホールド）とDELAY（ディレイ）
LCDディスプレイに表示しているHOLDは一度電波を受信すると電波がなくなっても、そのチャンネルで受信待ちの状態になります。
一方、DELAYは一定時間（設定された時間）受信待ちをしたあと、オートサーチをはじめます。ディレイ時間は各エリア毎に初期設定してあります。
※ディレイ時間の設定を変えることもできます。

2 マニュアル操作でエリア内をサーチする
メモリーバンクに登録済みのエリアを、マニュアルサーチします。

操作方法

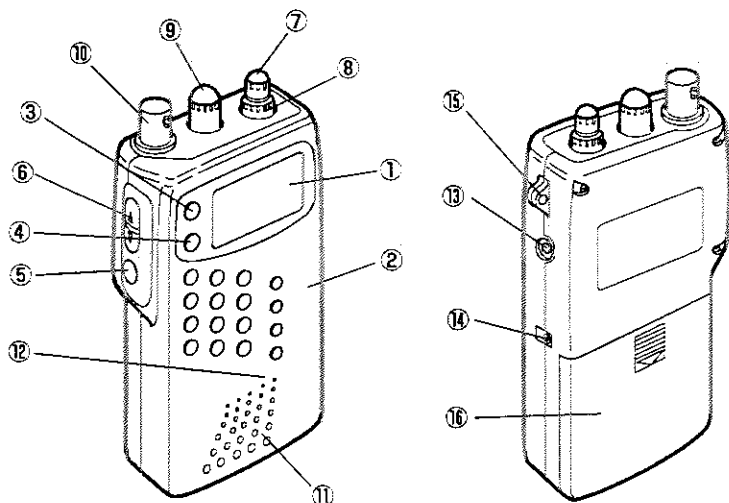
- 1 受信エリアを呼び出します。
受信エリア（バンクおよびエリアNo）を指定します。
- 2 オートサーチが停止しているときに、 アップまたは  ダウンボタンを押します。
オートサーチが解除されます。
- 3  アップまたは  ダウンボタンを押す度に、押した方向に1ステップずつ受信チャンネルが移動します。
- 4 ボタンを押し続けた場合は、押した方向に1ステップずつサーチし、ボタンを離すまでエリア内をサーチします。
オートサーチさせる場合は、[START・STOP] ボタンを押します。

ちょっとひと言

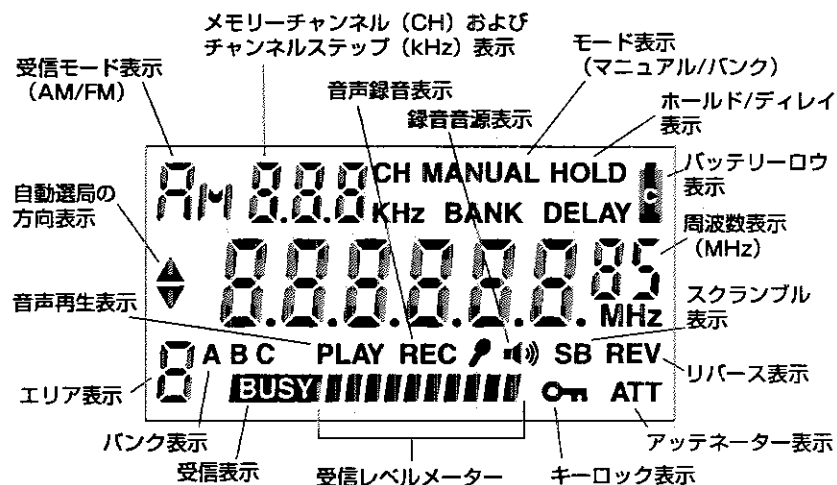
- [FUNC] ボタンを押しながら  アップまたは  ダウンボタンを押すことにより、マニュアルサーチのスピードが速くなります。

6. 操作方法 **ステップ2**

1. 各部の名称とはたらき



LCDディスプレイ



①LCDディスプレイ (液晶表示画面)

周波数・チャンネルステップ・受信モードなどの表示と、各動作モードを表示します。

②キーボード

受信エリア・周波数などを指定する数値キーと、メモリー登録などの機能をもった機能キーがあります。

③電源スイッチ……POWER

スイッチを1秒以上押し続ける度に、本機の電源をON/OFFします。

④ライト/キーロックキー……LIGHT・KEY

LCDディスプレイのバックライトを約5秒間点灯します。
1秒以上の押し続けによりキーロック動作となり、キーボードのキー操作ができなくなります。

⑤スタート/ストップボタン……START・STOP

自動選局 (オートサーチ) の開始および停止をします。

⑥アップ/ダウンボタン……▲/▼

自動選局の方向指定・マニュアル選局・メモリーチャンネルの検索などをします。

⑦音量ボリューム……VOL

スピーカーおよびイヤホンの音量調節ボリュームです。
右 (時計方向) に回すと、音量が大きくなります。

⑧スケルチボリューム……SQL

ノイズスケルチの調節をします。左 (反時計方向) に回すとザー音が聞こえ、右 (時計方向) に回すとザー音がなくなります。
ザー音が出る直前の位置が最適です。

⑨シフトボリューム……SHIFT

秘話通信の解読時に、キャリア調整をして、音声を聴きやすくします。

⑩アンテナ端子 (BNCコネクタ対応)

付属のラバーアンテナを接続します。
市販のBNC型アンテナを接続できます。

⑪内蔵スピーカー

⑫内蔵マイク

⑬イヤホンジャック……EAR (モノラル)

付属のイヤホンを接続します。イヤホンを接続すると、スピーカーからは音が出ません。

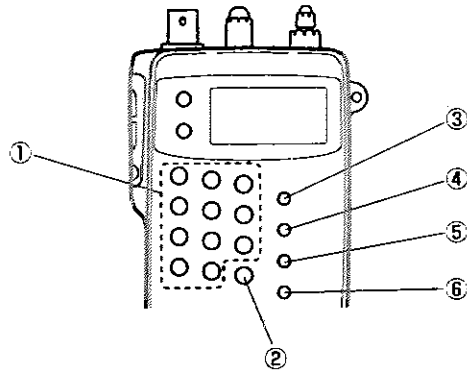
⑭外部電源ジャック……DC 12V

付属のACアダプターにより外部電源を接続します。

⑮ハンドストラップ取付部

⑯電池蓋

——キーボード——



- ①数値キー…… **1** ~ **0**、**.**
周波数・受信エリアNoおよびメモリーチャンネルを指定するときに使用します。
- ②ステップ/セットキー…… **STEP・SET**
チャンネルステップの切替をします。
1秒以上押し続けると、チャンネルメモリーの登録モードになります。
- ③ファンクションキー…… **FUNC**
ファンクションモードにします。
- ④プログラム/プライオリティキー…… **PRO・PRI**
プログラムサーチの開始および停止をします。
1秒以上の押し続けにより、プライオリティ受信の開始および停止をします。
- ⑤モード/パスキー…… **MODE・PASS**
受信モードの切替 (AM→FM) をします。
1秒以上の押し続けにより、受信中のチャンネルをパスメモリーに登録します。
- ⑥バンクキー…… **BANK**
バンクの切替 (A→B→C) をします。

2. 受信エリアについて

本機では、よく聴くエリアを24エリア (3バンク×8エリア) に分けてメモリーバンクに登録しています。お聴きになりたい受信エリアを、ワンタッチで呼び出せます。

メモリーバンクに登録済みの受信エリア

バンク	エリアNo	受信エリア	受信周波数範囲 (MHz)	チャンネルステップ (kHz)	受信モード	デレイ時間 (秒)
A	1	NTT携帯電話基地局	870.0125~884.8750	12.5	FM	2
	2	新電々系携帯電話基地局	843.0125~845.9875 860.0125~869.9875	12.5	FM	2
	3	小電力コードレス電話	380.2125~381.3000	12.5	FM	2
	4	アマチュア無線 (VHF帯)	144.0000~146.0000	20	FM	6
	5	アマチュア無線 (UHF帯)	430.0000~440.0000	20	FM	6
	6	パーソナル無線1	903.0375~904.9875	12.5	FM	6
	7	特定小電力トランシーバー	421.5750~422.3000 440.0250~440.3625	12.5	FM	6
	8	盗聴電波	VHF帯の16チャンネル UHF帯の34チャンネル		FM	6
	9	エリアメモリー	登録されたエリア			
	0	チャンネルメモリー	登録されたチャンネル			
B	1	NTT携帯電話移動局	925.0125~939.8750	12.5	FM	2
	2	新電々系携帯電話移動局	898.0125~900.9875 915.0125~924.9875	12.5	FM	2
	3	パーソナル無線2	901.0375~902.9875 899.0375~900.9875	12.5	FM	6
	4	タクシー無線	364.8250~453.3375	12.5	FM	6
	5	バス・鉄道	142.9000~159.1700 352.5000~415.2000	10/20 12.5/25	FM	6
	6	航空無線	118.0000~137.0000	50	AM	6
	7	MCA業務無線	850.0125~859.9875	12.5	FM	6
	8	業務無線・簡易無線	149.2900~159.0500 364.7500~468.8500	10 12.5	FM	6
	9	エリアメモリー	登録されたエリア			
	0	チャンネルメモリー	登録されたチャンネル			

バンク	エリアNo	受信エリア	受信周波数範囲 (MHz)	チャンネルステップ (kHz)	受信モード	ディレイ時間 (秒)
C	1	救急・新救急無線	146.0400~161.3700 395.2125~395.5125	10 12.5	FM	6
	2	消防・消防署活系無線	148.0100~154.3100 466.3500~466.5500	10 12.5	FM	6
	3	防災行政無線	143.2600~158.5300 353.2000~467.3750	10 12.5	FM	6
	4	防災行政MCA連絡波	846.2500~849.7500	12.5	FM	6
	5	災害復旧用電話 海上自衛隊船舶 海上保安庁船舶	355.5250~396.2750	12.5	FM	6
	6	報道連絡波	143.5400~167.3300 364.9500~469.9750	10 25	FM	6
	7	業務用無線 (電力・ガス・水道)	146.0200~159.0900 364.5250~385.1250	10 12.5	FM	6
	8	道路公団・JAF	141.8500~154.0300 357.3500~399.3750	10 12.5	FM	6
	9	エリアメモリー	登録されたエリア			
	0	チャンネルメモリー	登録されたチャンネル			

—— ちょっとひと言 ——

- チャンネルステップ・受信モードおよびディレイ時間は、変更することができます。
- チャンネルメモリーおよびエリアメモリーにメモリー登録するときは、「メモリーの登録」をご覧ください。→P24

3. 聴きたい周波数 (チャンネル) をダイレクトに受信する

お聴きになりたい周波数 (チャンネル) をキーボードより入力し、ダイレクトにそのチャンネルを受信します。

操作方法

(例) 871.0125MHzのチャンネルをダイレクトに受信する。

- 1 **FUNC** キーを押します。
LCDディスプレイに "F" が点滅します。
- 2 "F" 表示中に **BANK** キーを押します。
マニュアルモードになります。
- 3 受信したいチャンネル **[871.0125]** MHzを入力します。
テンキーにより、**[871.0125]** の順に入力します。入力ミスした場合は、**CLEAR** キーを押して、再度入力します。
- 4 **ENTER** キーを押して、入力した周波数の確定をします。
ENTER キーを押すと、入力したチャンネルで受信状態になります。
- 5 ダイレクト受信 (マニュアルモード) を解除するときは、再度①~②の操作をおこないません。
バンクモードに戻ります。

ディスプレイ表示

FM 125.0 MHz MANUAL DELAY
871.0125 MHz

—— ちょっとひと言 ——

- **ENTER** キーを押すと、入力したチャンネルの少数点以下の桁がチャンネルステップと一致するように自動補正されます。
たとえば、チャンネルステップが12.5kHzの場合、871.015を入力すると、871.025になります。
- ダイレクト受信が可能な周波数範囲は、108.0~170.0MHz、339.0~470.0MHz、790.0~999.9875MHzの範囲内です。受信周波数範囲以外のチャンネルは受信できません。
- マニュアルモードにするとエリア指定の範囲がなくなり、上記受信周波数範囲での受信ができます。

4. プログラム受信

複数の受信エリアを順番にサーチします。

操作方法

(例) バンクAのエリア③、⑤とサーチしたあと、バンクBのエリア⑤、⑦を連続サーチする。

① バンクモードにします。

〔FUNC〕キー→〔BANK〕キーのキー操作で切り替えます。

② 最初のエリアNoを指定します。

〔BANK〕キーによりバンクAに切り替えて、テンキーの〔3〕を押します。

ディスプレイ表示

FM 12.5 KHz BANK DELAY
3 870.0 12.5 MHz
3^A

③ 〔PRO・PRI〕キーを押します。

キーを押すとプログラム受信モードとなり、エリア③が点滅します。

④ プログラム受信するエリアを指定します。

〔BANK〕キーによりバンクを切り替え、テンキーによりエリアを指定します。

(例) の場合は、〔6〕→〔BANK〕→〔5〕→〔0〕の順に入力します。

⑤ 〔START・STOP〕ボタンを押します。

最初のエリアよりオートサーチをはじめます。サーチ中のバンクおよびエリアNoが点滅します。

⑥ プログラム受信を解除するときは、〔PRO・PRI〕キーを押します。

ちょっとひと言

- プログラム受信は、最大20エリアまで指定できます。
- 同じ受信エリアは、2回以上指定できません。同じ受信エリアを2回指定しても起きません。

5. 受信モードの設定

受信周波数の全帯域で受信モードをFM↔AMに切り替えることができます。また、切り替えた受信モードでオートサーチおよびマニュアルサーチができます。

操作方法

(例) バンクAのエリア①の受信モードをAMモードにしてサーチする場合

① バンクAのエリア①を呼び出します。

「①エリアをサーチする P10」をおこなって、受信エリアを指定します。バンクAのエリア①の場合、初期の受信モード〔FM〕モードを表示します。

ディスプレイ表示

FM 12.5 KHz BANK DELAY
8 700.0 12.5 MHz
1^A

② 受信モードを〔AM〕に切り替えます。

〔MODE・PASS〕キーを押します。キーを押す度にFM↔AMが交互に切り替わります。

ディスプレイ表示

AM 12.5 KHz BANK DELAY
8 700.0 12.5 MHz
1^A

③ 〔START・STOP〕ボタンを押します。

バンクAのエリア①の受信エリアをAMモードでオートサーチします。

ちょっとひと言

- 受信モードを変更した場合、受信中の音声が変わったり、受信エリアにより受信できなくなることがあります。
- 受信モードを変更したあと、他のエリアに切り替えたり電源を切った場合は、初期設定時の受信モードに戻ります。

6. チャンネルステップの設定

受信周波数の全帯域で、チャンネルステップを切り替えることができます。また、切り替えたチャンネルステップで、オートサーチおよびマニュアルサーチができます。

切替可能なチャンネルステップ：5・6.25・10・12.5・20・25・50kHz

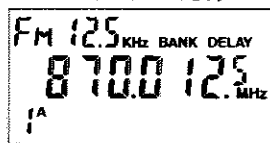
操作方法

(例) バンク[A]のエリア①のチャンネルステップを [6.25kHz] に変更してオートサーチする場合

① バンク[A]のエリア①を呼び出します。

「①エリアをサーチする P10」をおこなって、受信エリアを指定します。バンク[A]のエリア①の場合、初期のチャンネルステップ [12.5kHz] を表示します。

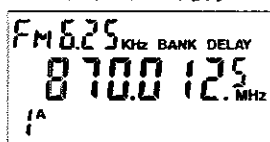
ディスプレイ表示



② チャンネルステップを [6.25kHz] に変更します。

[STEP・SET] キーを押します。キーを押す度にチャンネルステップが5→6.25→10→12.5→20→25→50と切り替わります。

ディスプレイ表示



③ [START・STOP] ボタンを押します。

バンク[A]のエリア①の受信エリアを、チャンネルステップ [6.25kHz] でオートサーチします。

ちょっと一言

- チャンネルステップを小さく（狭く）設定した場合は、エリア内を細かく受信します。また、大きく（広く）設定した場合はエリア内を素早くサーチできます。
- チャンネルステップを変更したあと、他のエリアに切り替えたり電源を切った場合は、初期設定のチャンネルステップに戻ります。

7. 秘話通信（スクランブル）の解読

コードレス電話の秘話通信機能（スクランブル機能）は、おもに音声反転式が使用されています。秘話通信を受信する場合、そのままでは音声として聴くことはできません。本機はコードレス電話の音声反転式の秘話通信を解読することができます。

操作方法

秘話機能（スクランブル）がかかった通信を受信したときに、[FUNC] キーを2回押します。

① [FUNC] キーを押します。

LCDディスプレイに“F”が点滅します。

ディスプレイ表示



② 5秒以内にもう一度 [FUNC] キーを押します。

秘話通信を解除します。（音声反転します。）LCDディスプレイに“SB”が点灯します。

ディスプレイ表示



③ シフトボリューム [SHIFT] を調整します。

シフトボリュームを回して、音声聴き取りやすい位置に調整します。

ちょっと一言

- 秘話解読機能は、受信中のチャンネルのみ有効です。オートサーチなどで受信チャンネルが変わった場合は、秘話解読機能が解除されます。
- 秘話がかかっていないチャンネルを受信中に、秘話解読機能を操作した場合は、音声反転した状態になります。元の状態に戻す場合は、[FUNC] キーを2回押ししてください。秘話解読機能が解除されて、秘話解読前の音声に戻ります。
- 本機は、音声反転方式以外の秘話通信を解読することはできません。また、自動車電話および携帯電話の秘話通信は解読できません。

7. 操作方法 **ステップ3**

1. メモリーの登録

本機は、チャンネルメモリー300CH（100CH×3バンク）およびエアリアメモリー3エリアを、メモリーバンクにメモリー登録することができます。

また、不要なチャンネルをパスするパスメモリーや、プライオリティーチャンネルメモリーがあります。

メモリー	メモリー数	メモリー登録
チャンネルメモリー	100CH×3	各バンクのエアリア①に登録
エアリアメモリー	1エリア×3	各バンクのエアリア②に登録
パスメモリー	200CH	パスメモリーに登録
プライオリティーチャンネルメモリー	10CH	プライオリティーチャンネルメモリーに登録

2. チャンネルメモリーの登録

〈チャンネルをエアリア①にメモリー登録する〉

① 受信中のチャンネルをダイレクトメモリーする

操作方法

（例）受信中のチャンネル870.0125MHzをバンクAの [050] CHにメモリー登録する。

① メモリー登録したいチャンネルを呼び出し（受信）します。

② **STEP・SET** キーを1秒以上押します。
チャンネルメモリーの登録モードとなり、LCDディスプレイのメモリーチャンネル部“000CH”が点滅します。

③ バンクAを指定します。
BANK キーによりバンクAを指定します。

④ チャンネルNo [050] CHを指定します。
テンキーにより [050] を入力します。

⑤ **ENTER** キーを押します。
チャンネルメモリーにメモリー登録します。



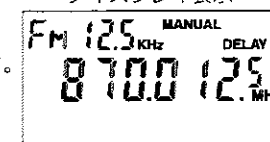
② チャンネル（周波数）をメモリー登録する

操作方法

（例）受信周波数が870.0125MHzのチャンネルをバンクA・エアリア①のチャンネルNo [050] CHにメモリー登録する。

① マニュアルモードにします。
FUNC キー→**BANK** キーの操作で、**BANK**↔**MANUAL**を切り替えて、**MANUAL** にしてください。

② 受信周波数を入力します。
テンキーにより [870.0125] の順に入力します。
入力ミスした場合は、**CLEAR** キーを押して、再度入力します。



③ **ENTER** キーを押して、入力した周波数の確認をします。

ご注意

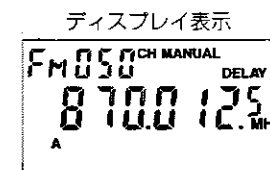
- **ENTER** キーを押すと、入力した周波数がチャンネルステップと一致するように自動補正されます。

④ **STEP・SET** キーを1秒以上押し続けます。
チャンネルメモリーの登録モードになります。

⑤ バンクを指定する場合
BANK キーによりバンクAを指定します。

⑥ チャンネルNoを指定する場合
テンキーにより [050] CHを入力します。

⑦ **ENTER** キーを押します。
バンクAのエアリア①にメモリー登録します。



⑧ マニュアルモードを解除するときは、**FUNC** キー→**BANK** キーの操作をします。

ちょっとひと言

- バンクを指定しない場合は、前に受信していたバンクに登録されます。
- チャンネルNoを指定した場合は、指定したチャンネルNoにメモリー登録します。チャンネルNoを指定しない場合は、メモリー登録した順番のチャンネルNoで登録されます。
- チャンネルNoは、各バンクに [000] CH～ [099] CHまで、全部で300チャンネルあります。
- 周波数を入力するときは、受信範囲内の周波数を入力してください。

③ 登録したチャンネルを受信する

操作方法

(例) バンク[A]・エリア[0]の [050] CHにダイレクトメモリーしたチャンネルを受信する場合

- 1 バンク[A]を指定します。
(BANK) キーを押して切り替えてください。
- 2 エリア[0]を指定します。
テンキーの [0] を押してください。
- 3 チャンネルNoを指定します。
アップダウン (▲/▼) ボタンを押してチャンネルNo [050] CHを指定します。
- 4 指定したチャンネルNoのチャンネルで受信状態になります。
- 5 バンク[A]エリア[0]にメモリー登録した全チャンネル (最大100チャンネル) をオートサーチする場合は、(START・STOP) ボタンを押します。



④ 登録したチャンネルを消去する

(チャンネルメモリーに登録したチャンネルを取り消す)

操作方法

(例) バンク[A]・エリア[0]のチャンネルNo [050] CHにダイレクトメモリーしたチャンネルを消去する。

- 1 (FUNC) キーを押します。
LCDディスプレイに "F" が表示され、点滅します。
- 2 (STEP・SET) キーを押します。
チャンネルメモリーの消去モードとなり、LCDディスプレイに、約1秒間 "CH clr" と表示され、最後に登録したチャンネルのチャンネルNoと周波数を表示します。
- 3 バンク[A]を指定します。
(BANK) キーを押して切り替えます。



④ 消去するチャンネルを指定します。

テンキーにより、チャンネルNo [050] CHを入力します。また、アップ/ダウンボタンで選択することもできます。

- 5 (ENTER) キーを押します。
指定したチャンネルを消去します。

⑥ 消去モードを解除するときは、(CLEAR) キーを押します。

また、約10秒間の無操作でも解除します。

3. エリアメモリーの登録

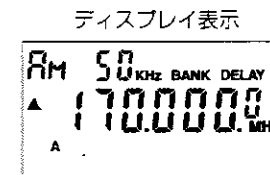
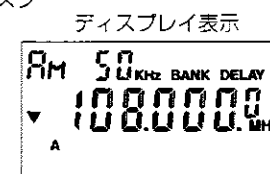
(エリア (受信周波数範囲) をエリア[0]にメモリー登録する)

① エリアメモリーの登録方法

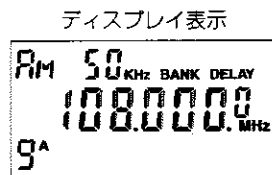
操作方法

(例) 108.000~170.000MHzの範囲を、受信モード[AM]・チャンネルステップ [50kHz] で、バンク[A]にメモリー登録する場合

- 1 (FUNC) キーを押します。
LCDディスプレイに "F" が表示され、点滅します。
- 2 (A-MEMO) キーを押します。
エリアメモリーの登録モードとなり、LCDディスプレイに "▼" および周波数表示が点滅します。
- 3 バンク[A]に切り替えます。
(BANK) キーを押して切り替えます。
- 4 受信モードをAMモードにします。
(MODE・PASS) キーを押して切り替えます。
- 5 チャンネルステップを [50kHz] に設定します。
(STEP・SET) キーを押して切り替えます。
- 6 [108.000] MHzを入力します。
テンキーにより、下限周波数を指定します。
- 7 (STEP・SET) キーを1秒以上押し続けます。
下限周波数を確定します。



- ⑧ 170,000 MHzを入力します。
 テンキーまたはアップ/ダウンキーにより、上限周波数を指定します。
- ⑨ (STEP・SET) キーを1秒以上押し続けます。
 バンクAのエリア⑨にメモリー登録します。



ちょっとひと言

- 10秒間の無操作で、エリアメモリーの登録モードを解除します。
- エリアメモリーを登録するときは、かならず下限周波数を設定してから上限周波数を設定してください。
- エリアを設定するときは、かならず本機の受信周波数の範囲内としてください。受信周波数をこえた場合は、メモリー登録できません。
- 受信モード、チャンネルステップ、バンクを指定しない場合は、LCDディスプレイに表示中の受信モードおよびチャンネルステップ、バンクがメモリー登録されます。
- ディレイ時間およびアッテネーターを指定する場合は、エリアメモリーをおこなう前に設定してください。ディレイ時間を指定するときは、P35「ファンクションキーを使用した機能」をご覧ください。
- エリアメモリーにメモリーした内容を、個別に消去することはできません。エリアメモリーを消去するには、「P38 ③メモリーオールクリア」をおこなってください。

- ② エリアメモリーの受信方法
 エリアメモリーにメモリー登録したエリアを呼び出して受信します。

操作方法

(例) バンクAのエリア⑨にメモリー登録したエリアを呼び出して受信します。

- ① バンクAを指定します。
 (BANK) キーを押して切り替えてください。
- ② エリア⑨を指定します。
 テンキーの (9) を押してください。
- ③ (START・STOP) ボタンを押します。
 オートサーチを開始します。

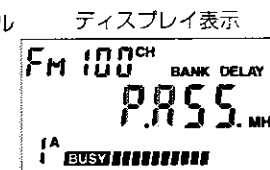
4. バスメモリーの登録

- ① バスメモリーの登録方法
 <受信中のチャンネルをバスメモリーにメモリー登録する>

受信に不要なチャンネル(制御チャンネルなど)を、バスメモリーに登録しておくこと、オートサーチ中はメモリー登録したチャンネルをパスします。

操作方法

- ① 不要なチャンネルを受信します。
 オートサーチにより、不要なチャンネルを受信します。不要なチャンネルがわかっていない場合は、ダイレクト受信をしてください。
- ② (MODE・PASS) キーを1秒以上押します。
 LCDディスプレイに「PASS」およびチャンネルを約1秒間表示します。
 バスメモリーにメモリー登録終了



ちょっとひと言

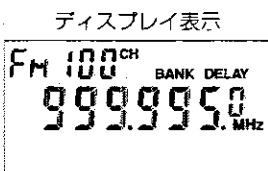
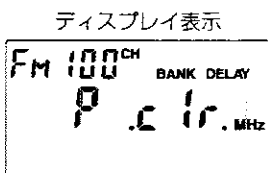
- バスメモリーには最大200CHまでメモリー登録できます。
- 登録順のチャンネルNo ([000] CH → [001] CH → … [199] CH) で、バスメモリーにメモリー登録します。

② バスメモリーの消去方法
 (バスメモリーに登録したチャンネルを取り消す)

操作方法

(例) バスメモリーのチャンネルNo [100] CHに登録したチャンネルを取り消します。

- ① **FUNC** キーを押します。
LCDディスプレイに「F」が表示され、点滅します。
- ② **MODE・PASS** キーを押します。
LCDディスプレイに約1秒間「P clr」と表示されたあと、最後に登録したチャンネルが表示されます。
- ③ チャンネルNo [100] CHを指定します。
テンキーにより、チャンネルNoを入力します。
アップ/ダウンボタンで選択することもできます。
- ④ **ENTER** キーを押します。
指定したチャンネルNoのバスメモリーを消去します。
- ⑤ 消去モードを解除するときは、**CLEAR** キーを押します。
また、約10秒間の無操作でも解除します。



ちょっとひと言

- バスメモリーを消去した場合は、チャンネルNoが繰り返り下がります。
例えば、チャンネルNo [005] CHのバスメモリーを消去した場合は、消去前のチャンネルNoが [050] CHのチャンネルは、消去後 [049] CHに変わります。

8. プライオリティー受信

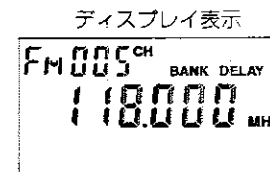
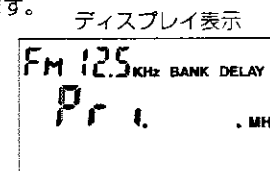
他のチャンネルを受信中でも、プライオリティーチャンネルの検索をおこない、信号があれば優先受信します。
 プライオリティーチャンネルは [000] CH～[009] CHまでの10チャンネルがあります。
 また、[000] CHには350.1MHz (速度取締連絡波) が登録されています。

① プライオリティーチャンネルのメモリー登録

操作方法

(例) 受信チャンネル [118.000] MHzをチャンネルNo [005] CHにメモリー登録します。

- ① **FUNC** キーを押します。
LCDディスプレイに「F」が表示され、点滅します。
- ② **PRO・PRI** キーを押します。
プライオリティーチャンネルの登録モードとなり、LCDディスプレイに「Pri」と1秒間表示され、「MHz」が点滅します。
- ③ [108.000] を入力します。
テンキーまたはアップ/ダウンボタンの操作により、チャンネルを指定します。
- ④ **ENTER** キーを押します。
LCDディスプレイのチャンネルNoが点滅します。
- ⑤ [5] を入力します。
テンキーにより、チャンネルNoを指定します。
- ⑥ **ENTER** キーを押します。
プライオリティーチャンネルにメモリー登録し、入力したチャンネルでプライオリティーチャンネルの検索を開始します。
- ⑦ プライオリティーチャンネルの登録モードを解除するときは、**CLEAR** キーを押します。
また、約10秒間の無操作でも解除します。



ちょっとひと言

- 受信モード、ディレイ時間、およびアッテネーターを指定する場合は、プライオリティーチャンネルの登録モードに入る前に指定しておいてください。
- メモリー登録時に、チャンネルNoを指定しない場合は、メモリー登録した順番のチャンネルNo (LCDに表示しているチャンネルNo) で登録されます。

② プライオリティーチャンネルを受信する

操作方法

(例) 他のチャンネルを受信中に、チャンネルNo [005] CHのプライオリティーチャンネルを受信する場合

- ① 他のチャンネルを受信中に、**PRO・PRI** キーを1秒以上押し続けます。

LCDディスプレイに“P”と“000CH”が点滅します。

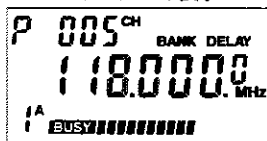
ディスプレイ表示



- ② チャンネルNo [005] CHを指定します。

テンキーまたはアップ/ダウンボタンにより、チャンネルNoを指定します。

ディスプレイ表示



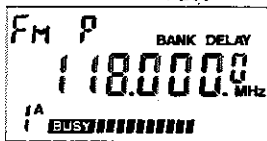
- ③ **ENTER** キーを押します。

指定したチャンネルでプライオリティー受信を開始します。3秒間隔でプライオリティーチャンネルの信号検索をおこないます。

- ④ プライオリティーチャンネルに信号(電波)があれば、受信状態になります。

LCDディスプレイのチャンネル表示部に“P”を表示します。

ディスプレイ表示



- ⑤ プライオリティー受信を解除するときは、

PRO・PRI キーを1秒以上押します。

ちょっと一言

- プライオリティーチャンネルの信号検出時は、受信中の音声は3秒間隔で途切れませんが、これは故障ではありません。

9. 盗聴電波の受信

無線式盗聴器の発信周波数は、特定の周波数帯が使用されています。

無線式盗聴器の発信周波数

- ① FM放送帯：76～90MHz
- ② VHF帯：140MHz帯
- ③ UHF帯：400MHz帯

本機は、無線式盗聴器によく使用されているVHF/UHF帯の50チャンネルを、バンク[A]のエリア[B]にメモリー登録しています。

1. 盗聴電波の受信方法
バンク[A]のエリア[B]を呼び出して、オートサーチまたはマニュアルサーチします。受信方法は、「①エリアをサーチする」P10をご覧ください。
2. 盗聴器の場所の特定
盗聴電波を受信することにより、盗聴器の場所を特定することができます。

場所の特定方法

- ① 盗聴電波の強い方向を調べます。
LCDディスプレイのレベルメーターがよく振れる方向に進みます。
- ② レベルメーターの振れが最大になったら、ラバーアンテナを外し、さらに電波の強い方向に進みます。
- ③ 電波の発信源(盗聴器)に接近すると、ハウリングが起こります。
数mの位置に近づくと「ワーン」と大きなハウリング音がします。
- ④ ハウリングが起きた場所をよく調べてください。

ちょっと一言

- 本機は、VHF/UHF帯の無線を使用した盗聴器の発信電波を受信するものです。
- 盗聴器はその性質上、発見が難しい場所やこんなものかと思うものにセットされています。発見が難しい場合や危険を伴うおそれがある場合は、専門の調査機関に依頼してください。

10. 録音・再生機能

受信中の音声や、マイクに入ってくる音声を録音し、再生することができます。

1. 録音機能

音声の録音をおこないます。

操作方法

① 録音する音源を設定します。

FUNC キー→テンキー **3** の操作の度に、録音する音源が、マイク→スピーカー→OFFの順に切り替わり、それに応じたマークがLCDディスプレイに表示されます。

- 🎤 **マイク** : マイクからはいる音声を録音します。
- 🔊 **スピーカー** : 受信中の音声を録音します。
- OFF : 録音・再生をしません。

② 録音を開始します。

FUNC キー→テンキー **1** のキー操作で、音声の録音を開始します。録音中は、LCDディスプレイに“REC”が点滅し、レベルメーターで録音可能な時間を表示します。

③ 録音を終了します。

録音中にテンキーの **1** を押すと、録音を終了します。また、録音時間が30秒をこえると、自動的に録音を終了します。

注意

- 録音する音源をマイクまたはスピーカーにすると、OFFのときとくらべて電池の消耗が早くなります。
- 音源がOFFのときに電源を切ると、録音した内容が消去されます。

2. 再生機能

録音した音声を再生します。

操作方法

① 再生を開始します。

FUNC キー→テンキー **2** のキー操作で、録音した音声の再生を開始します。再生中は、LCDディスプレイに“PLAY”が点滅します。

② 再生を終了します。

再生中にテンキーの **2** を押すと、再生を終了します。また、録音した内容を全部再生すると、自動的に再生を終了します。

11. ファンクションキーを使用した機能

ファンクションキーと各機能キーとの組み合わせにより、いろいろ便利な機能を使用することができます。

操作方法

FUNC キーを押して、LCDディスプレイに“F”が点滅している間（5秒間）に各機能キーを押します。

① **FUNC** キーを押します。
LCDに“F”が点滅します。 5秒以内

② 各機能キーを押します。
ファンクションモードでの機能となり、各機能キーにより、それぞれ違う機能となります。

	機能キー	ファンクションモードでの機能
FUNC →	LIGHT · KEY	30秒バックライト
	FUNC	秘話解読（音声反転） →P23
	PRO · PRI	プライオリティチャンネルのメモリー登録 →P31
	MODE · PASS	パスメモリーの消去 →P30
	BANK	バンク→マニュアルの切替 →P19
	STEP · SET	チャンネルメモリーの消去 →P26
	1	録音の開始 →P34
	2	再生の開始 →P34
	3	録音音源の切替 →P34
	4	ディレイ時間の切替
	5	1~9秒 オートサーチ
6	リバースモード	
7	アッテネーターのON/OFF	
8	オートパワーオフ機能のON/OFF	
9	エリアメモリーの登録 →P27	
0	キートンのON/OFF	

ちょっと一言

- **FUNC** キーを押したあと、5秒以内に機能キーを押さない場合は、ファンクションモードが自動的に解除されます。

① **FUNC** キー→テンキー **4**

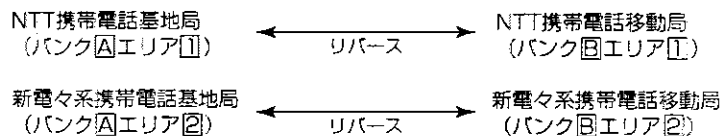
オートサーチ中のディレイ時間を切り替えます。
テンキーの **4** を押す度に、HOLD→DELAY2秒→DELAY6秒→
DELAY10秒の順にディレイ時間が切り替わり、LCDディスプレイに、それ
それに応じた表示がされます。
目的のディレイ時間に切り替えたあと、**ENTER** キーを押して決定します。
CLEAR キーを押すか、約5秒間無操作で解除します。

② **FUNC** キー→テンキー **5**

一定時間(1~9秒)受信すると、自動的にオートサーチを開始します。
テンキー、アップ/ダウンボタン→**ENTER** キーの操作によりオートサー
チを開始する時間を決定します。中止するときは、**CLEAR** キーを押します。
また、5秒間の無操作でも中止します。
FUNC キー→テンキー **5**、またはディレイ時間を設定することによ
り、このモードを解除します。

③ **FUNC** キー→テンキー **6**

NTT携帯電話および、新電々系携帯電話を受信中に、基地局と移動局の受信チ
ャンネルを入れ替えます。



例えば、870.0125MHz (バンクAエリア1) を受信中にリバースモードを
おこなうと、925.0125MHz (バンクBエリア1) を受信します。
その後は、テンキーの **6** を押す度に、基地局と移動局のチャンネルをリ
バースします。

注意

- リバースモードで移動局に切り替えたときに、移動局の電波が弱いため、受
信しにくいことがあります。

ちょっとひと言

- ダイレクト受信(マニュアルモード)時は、リバースできません。
- リバースモードをおこなうと、オートサーチが解除されて、そのチャンネルを受信
したままになります。サーチさせる場合は、**START・STOP** ボタンを押します。
- リバースモードは受信中のチャンネルのみ有効です。リバース中の受信チャンネル
をサーチなどで変更した場合は、リバースモードが解除されます。

④ **FUNC** キー→テンキー **7**

受信アッテネーター(感度)のON/OFFをします。
アッテネーターをONにすると、受信感度が約15dB減衰します。
アッテネーターがONのときは、LCDディスプレイに“ATT”を表示します。
強い電波を受信したときや混信がひどいときにアッテネーターをONにします。

⑤ **FUNC** キー→テンキー **8**

オートパワーオフのON/OFFをします。
オートパワーオフをONにすると、30分間無操作の状態が続いたときに、自動
的に電源を切ります。
電源が切れる30秒前から、5秒間に1回ブザー音で知らせます。

⑥ **FUNC** キー→テンキー **0**

すべてのキートーン音(キーを押したときのブザー音)を消します。
同じ操作で解除します。

⑦ **FUNC** キー→**LIGHT・KEY** キー

LCDディスプレイおよびテンキーのバックライト照明を、約30秒間点灯しま
す。

12. 電源ON時の機能

各操作キーを押しながら電源を入れることで、以下に示すような機能を使用できます。


操作方法

電源がOFFの状態、各操作キーを押しながら電源をON (**POWER** スイッチを1秒以上押し続ける) します。

- ① **LIGHT・KEY** キーを押しながら電源ON
LCDディスプレイの全表示と、LCDディスプレイおよびテンキーのバックライト照明を、約5秒間点灯します。
- ② **FUNC** キーを押しながら電源ON
電話番号を、0番～9番までの10件分メモリー登録することができます。アップ/ダウンボタンで0～9の番号を選択します。LCDディスプレイにその番号に対応した電話番号が表示されます。
電話番号をメモリー登録するには、アップ/ダウンボタンで0～9の番号を選択したあとに、**FUNC** キー→**CLEAR** キーの操作をして、テンキーで電話番号を入力してください。電話番号は10桁まで入力可能です。
入力後 **ENTER** キーを押すと、登録完了です。
登録中に5秒間何も操作しないと、自動的に登録動作を中止します。
通常の動作に戻すには、一度電源を切ってください。
- ③ **CLEAR** キーを押しながら電源ON
チャンネルメモリー・エリアメモリー・バスメモリー・プライオリティーチャンネルメモリーにメモリーされた内容をすべて消去し、初期の状態に戻します。
メモリーの消去中は、LCDディスプレイの高波数表示部に“E clr”と表示されます。
メモリーの消去が終了すると、自動的に電源が切れます。
※自動的に電源が切れるまでは、何も操作をしないでください。

13. 故障とお考えになる前に

ご使用中に異状を感じたときは、故障と思われる前に下記の点をお確かめになってください。

症 状	原 因
電源が入らない (画面表示しない)	<ul style="list-style-type: none"> ● 電池が消費している →新しい電池に交換してください ● 電源プラグが奥まで入っていない ● 外部電源がきていない
受信しない (音が出ない)	<ul style="list-style-type: none"> ● 音量が低い ● イヤホンが接続されている ● オートパワーオフ機能がはたらいている →電源を入れ直してください
音声途切れる	<ul style="list-style-type: none"> ● スケルチボリュームが右に回りすぎている →左(反時計方向)に回してください ● 電波が弱い ● アッテネーターがONになっている →アッテネーターをOFFにしてください ● プライオリティー受信をしている →プライオリティー受信を解除してください
音声がおかしい	<ul style="list-style-type: none"> ● 受信モードが合っていない →受信モードを切り替えてください ● 秘話解読モードになっている →秘話解読を解除してください
変な信号音を受信する	<ul style="list-style-type: none"> ● 制御チャンネルやデジタル通信を受信している →音声での受信はできません
操作キーを押しても動作しない	<ul style="list-style-type: none"> ● キーロック () 状態になっている →キーロックを解除してください
サーチしない	<ul style="list-style-type: none"> ● スケルチボリュームが左に回りすぎている →右(時計方向)に回してください

14. 主な仕様

- 電源電圧.....DC4.5V 単3形乾電池3本
DC 12V 外部電源
- 受信周波数.....108.0000MHz~170.0000MHz
339.0000MHz~470.0000MHz
790.0000MHz~999.9875MHz
- 受信電波型式.....AM/FM
- 周波数ステップ.....5/6.25/10/12.5/20/25/50kHz
- メモリー数.....エリアメモリー 1エリア×3バンク
チャンネルメモリー 100チャンネル×3バンク
パスメモリー 200チャンネル
プライオリティー 10チャンネル
- アンテナインピーダンス.....50Ω
- 受信感度.....AM 1.0μV S/N 10dB
FM 0.5μV 12dB SINAD
- 動作温度範囲.....-10℃~+60℃
- 外形寸法.....63 (W)×30 (D) ×115 (H) mm
アンテナおよび突起部は除く
- 重量.....175g

保証規定

1. 保証期間内(お買い上げ日より1年間)に、正常な使用状態において万一故障した場合には無料で修理いたします。
2. 保証期間中に修理を依頼される場合は、本機に保証書を添えて、お買い上げ販売店にお持ちください。
3. 次のような場合には保証期間内であっても有料修理となります。
(イ) 使用上の誤り、本機に改造を加えたことによる故障、またはお買い上げ店以外で修理されたことによる故障
(ロ) お買い上げ後の輸送、移動、落下などによる故障や損傷
(ハ) 火災、地震、水害、公害、規定外の電源(電圧・周波数)の使用、その他天災地変などによる故障および損傷
(ニ) 保証書のご提示がない場合
(ホ) 保証書の指定事項の未記入、あるいは字句が書き替えられている場合
4. 本保証書は、日本国内においてのみ有効です。

修理メモ